

第3回 台東区区民憲章策定区民会議 議事概要

日時：平成18年1月23日(月)19～21時

場所：台東区役所1001会議室

次第

1 議事概要確認

2 議事

(1) 報告事項

班別会議のまとめについて(資料1)

(2) 審議事項

区民憲章の名称・構成について(資料2)

アンケート調査について(資料3)

次回日程

配布資料

本日全体会議の議論のポイント

区民憲章策定区民会議 座席表

資料1 台東区区民憲章策定区民会議 班別討議のまとめ

資料2 区民憲章の名称・構成について

資料3 アンケート調査の実施(案)について

参考資料 台東区区民憲章策定区民会議 議事概要

議事概要

懸田会長

- ・ 事前配布されていた前回の議事概要について、何かご意見はありますか？問題がなければ、近日中に区のホームページに掲載させていただく。

(意見なし)

(1) 報告事項

班別会議のまとめについて

<会長・副会長から>

- ・ 最終的には憲章を基に実践活動をすることになるが、そのときには地域ごとに実践内容は変わってくると思う。個性の強い地域があるという共通の認識があったようであるが、

次回の班別会議は他班の意見も踏まえて議論してほしい。

- ・ 議論がかなりこなれて、よくまとまっている感じがする。また、台東区は既存の地域活動が盛んな地域で、これは大都市では得難い文化であるので、こうしたものと区民憲章をどうつないでいくかが今後のポイントだと思っている。
- ・ これだけ深い議論ができるのは、やはり故郷を心の底から慈しむ、愛している想いが満ちあふれているからであり、こうしたプロセスを経た憲章は間違いなく、拙速な過程でつくった憲章と比べると大きく変わってくると思う。
- ・ 私の知る限りでは、台東区が一番熱を込めてやっていると思う。このあと、文言を絞り込んでいくが、「イメージしやすい言葉かどうか」、「声に出して言いやすい言葉かどうか」という2点に注意して、選定して行ってほしい。

<会議全体について>

- ・ 若い人が議論に参加していないのが残念である。30代未満の世代がどういうことを思っているか把握できていないと思う。今後実施するアンケートでフォローするしかない。
- ・ 若い人は自分の生活が大変であり、目先のことで精一杯になっている。こういう総合的なことは高齢の人がやるのもよいのではないか。私の周辺では、議論の結果をみてもらい納得してもらっているので、私は良かったと思っている。
- ・ 抽象的な表現に実効性があるという考え方には私も賛成である。大きな意味で網をあげるということが大事だと思う。
- ・ 全体会議では、各班のリーダーを決めて、その人が班の代表的な意見を発言し議論していく方法でないと、議論が拡散してしまうのではないか。

<議論の内容について>

- ・ 地域個性が強い区であるという点が全班で共有されているが、「根岸」についてはどういいう議論があったのか伺いたい。
- ・ 根岸は吉原など代々固有の産業を持ち、にぎわいの中心であった。また、文化人も多いが、きれいな部分だけでなく、艶っぽい部分もあるのが根岸の特長である。こうしたところも認めて、今日の台東区が成立してきたということを共通認識として持った方がよい。
- ・ 正岡子規の生家など文化的施設が多いところも特徴といえるのではないか。
- ・ 第2班では、根岸は花柳界として捉えたと記憶している。ただし、各地域の特徴についてここで議論すると拡散してしまうので地域ごとの議論はとどめたい。
- ・ 各地域について議論すると多くの個性が出てくるが、それらを総括すると文化や歴史といった言葉で総括するしかないという状況になった。
- ・ これまでの議論では国際性という部分が欠けているように思う。台東区には外国人も多く居住しているが、江戸文化に拘泥して、国際性の部分がどの班の議論にもなかったと今は感じている。

- ・ その点は、区民の範囲を特定の対象に限定しないことで、外国人も対象という認識のもと議論している。第3班では、「上野駅」は玄関口とまとめているが、これは外国人、来街者を受け入れるという意味を含めた言葉として理解してきた。
- ・ 台東区は産業の特性も地域の特性と同じくらいある。この憲章が区民だけでなくもっと広い範囲の人たちを対象にしているのなら、そういうことも考えていく必要もあるだろう。
- ・ 議論において「祭」が大切にされているのがうれしい。しかし、大多数の若者にとっては、「文化的に価値があるから」といった意識はなく、一生懸命やっていたら、他から評価されるようになったという感覚かもしれない。
- ・ 台東区は自社仏閣が身近にあり、墓も多いことから四季折々の行事も多い。日本にかつてあった「ふるさと」が台東区には残っていると思う。そのほか、住民がそれぞれのまちに誇りをもっていること、情が受け継がれていく人情の町を大切にしていきたい。

(2) 審議事項

区民憲章の名称・構成について

- ・ 「ピアネーズ台東」については、去年の早いうちに提案したもので、ここで取り上げられて驚いている。私はフランス語はわからないので、友人に提案してもらったものである。
- ・ 第1回全体会のあと、ある学校に訪問したところ、校長先生をはじめ区民憲章について、理解している人はほとんどいなかった。そういう意味では、思い切って主題と副題を逆に考えた方がいいのではないか。例えば、「台東区民の誓い(台東区区民憲章)」とした方が、子ども達もわかりやすいのではないか。
- ・ 構成は定型がよいと思うが、名称については、台東区民憲章といった一般的なものと、台東区固有の表現である副題が併記される形がよい。
- ・ 名称は今後も検討していくが、一般的な名称とするのか、副題をつけるのかについてまず考えていく必要がある。これは次回の全体会等で諮りたい。それよりも先に決めないといけないのは構成である。

懸田会長

- ・ 当面、アンケート等を実施する上では前文+本文という定型で進め、修正していく過程で最終的に決めていくということではどうか。それでは5ヶ条かどうかはわからないが、「前文+本文」による定型で当面は進めていく。また、名称についても当面は「台東区区民憲章」として進めていく。

アンケート調査について

<アンケートの目的・内容について>

- ・ アンケートには2つの目的が想定でき、一つは我々の議論が区民全体の意向と大きくず

れていないかどうかを確認すること、もう一つは新たな発想を抽出することが考えられる。これらを組み合わせることも考えられる。

- ・ 調査票も回答の労力を少なくする点はわかるが、これでは誘導型になっている。
- ・ アンケートを実施するのはよいが、何を聞いて、どう反映するのかを考えないとそれ自体が労力の無駄になる。また、区民憲章について説明する案内文なども必要ではないのか。
- ・ 小中学生へのアンケートについて、選択式は回答しやすいが、憲章において彼らにどのような言葉が響くか、理解できるかということを知るためにも自由回答式がよいと思う。
- ・ 区民憲章の名称についても区民に問うべきではないか。
- ・ アンケート調査の目的には、区民憲章の PR もあるので、そういう意味では、回収率が低くとも広範囲に配布することは意味がある。アンケートから何かの答えや意見をもらえることを期待するのはアンケートへの過大評価の恐れがある。
- ・ これまでの議論で、「実践」が大事であることがわかってきた。アンケートは実践の第一歩ではないか。あまり急がず、みんなに憲章を策定していることが伝わるアンケートにすべきである。

<アンケートの対象について>

- ・ 各種団体を通じて配布すると、どうしても 40 代以上の対象が多くなってしまい、これまでの議論で欠けている若い世代の意見はでてこないのではないかと。
- ・ 各種団体も町会だけでは高齢層になってしまうので、マンション管理組合、産業団体等も想定している。なお、サンプルの目安は 1,000 サンプルを考えている。
- ・ 子どもアンケートを実施するのであれば、その親にも一緒に答えてもらえば、若い親の世代についても意見をもらえるのではないかと。
- ・ 回答数を多く集めるのがよいのか、深く聞くのがよいのかも検討する必要がある。
- ・ 区民憲章を唱和させる対象には小学生も入るので、次代を担う小学生からヒント、気づきをもらうという考え方が必要ではないか。そのためのアンケートであるべきである。また、外国人の目線からの台東区についても聞くのであれば、在日フランス人学校も区内にあるので対象にした方がよい。
- ・ 台東区内にも高校があるので対象に入れてほしい。高校には台東区外の学生も多いと思うので新たな発想が得られるのではないかと。

(事務局) 今回の調査票の例示はたたき台にもあまり相応しいものではなく、中身を作り替えていることである。また、対象として青年会議所も検討しており、不足する対象を補うこともできる。本日の意見を受けて、次回は納得できるものを提案したい。

<アンケートの実施時期について>

- ・ 子どもアンケートは学校側との調整で 2 月中ないしは、5 月以降でないかと協力できない

と言われており、実施の概要については本日決める必要がある。

- ・ 2月中に実施するということが、まだ交渉中であるのであれば、拙速に実施するのではなく、4月のガイダンスの時間等でもできるのではないか。実施時期を焦るあまり、十分に検討されていないアンケートをやっても意味がない。
- ・ 予算執行的に可能であれば、小中学生の分は来年度に延ばしてもいいのではないか。一般アンケートについては3月頃に実施することを目途に進めていけばよいのではないか。

(事務局) アンケートの実施時期は、区民憲章策定スケジュール全体に影響してくる。全委員の意向で平成18年度いっぱい議論するというのであれば問題はない。

次回日程

懸田会長

- ・ 2月中にアンケートを実施するのは拙速であるという意見が大半を占め、方法論、目的についても慎重に検討すべきという意見が多く聞かれた。事務局には、次回の全体会に諮るまでにこれらについて調整してほしい。
- ・ 次回は班別会議を開催するが、そこでは3班が議論してきた結果を全部持ち寄って、それらを踏まえて、憲章の内容をどうしていくのかについて議論していただく。並行して、アンケート調査についても議論するという方向で進めたい。

以上